



カンボジア 魅力発掘の旅



旅行日程：2018.03.06~03.14

海外旅行実施報告書

観光学部観光ビジネス学科
2年 土門美久
17131057



1日目～2日目 札幌→香港→プノンペン



03.06	12:00	新千歳空港 集合
	16:00 ~	[CTS] 新千歳空港発 キャセイパシフィック航空 CX 581便
	20:55	[HKG] 香港国際空港 到着
滞在時間：12時間10分		
03.07	09:05 ~	[HKG] 香港国際空港 発 キャセイパシフィック航空 CX 5208便 (※運航：キャセイド ラゴン航空)
	10:45	[PHN] プノンペン国際空港 着

5
時間
55
分

香港国際空港で空港泊。
 空港内には有料のラウンジを使用しなくても横
 になって休める無料のスペースがあり、そこで一
 夜を過ごした。椅子の数に限りはあったが、夜間
 は薄暗く静かで、とても見晴らしも良く飛行機を
 間近で見られる。ネットではベンチに横になって
 仮眠をとる方法が紹介されていたが、ハブ空港な
 ので空港内は明るく静かとは言いづらい。

場所はターミナル1レベル5のゲート26付近。
 空港案内図や看板が出ている。

ただ個別のスペースではない
 ので貴重品の管理はロッカーを
 利用することをお勧めする。

その他、無料Wi-Fi・
 飲料水・充電が完備



香港国際空港での乗り換え
 を含めて20時間45分



カンボジア入国

税関申告書とビザ申請用紙は香港からカンボジアに向かう機内で配られた。（ビザ申請には顔写真1枚と30USドルが必要）

入国カードはイミグレーションカウンター前で歩いている職員の方に貰った。入国審査は両手10本の指紋採取が必要らしいが、1週間のサイトシーイングだからか顔写真を撮られただけで不自由なく入国。

職員は英語よりクメール語を話していた印象が強く、ビザ取得や入国審査の際も、何か質問されたりすることはなかった。

税関申告も簡易的で、申告のない人は申告書をボックスに入れて終了。



03.07

12:00頃

ゲストハウスに着いてからの動き

プノンペン国際空港付近のカフェで一息

↓
タクシーでゲストハウスまで移動（1人7.5ドルくらい）
ホテルの名前と住所を書いたメモを用意していたが、正解だった。

↓
セントラルマーケット

ナーウィングゲストハウスまでタクシーで30分ほど。

↓
ゲストハウスから徒歩20分ほど。



03.07

12:00頃

ゲストハウスに
着いてからの動き

(ソリヤはクメール
語で太陽)

プノンペン国際空港付近の
カフェで一息
↓
タクシーでゲストハウスまで
移動 (二人で15ドルくらい)
↓
ナーウィングゲストハウス
↓
セントラルマーケット
↓
ソリヤショッピングモールで
ご飯
↓
リバーサイドを散策
↓
ブルーパンプキン
↓
公園
↓
ゲストハウス

プノンペン中心街のゲストハウスまでタクシーで30分ほど。
ホテルの名前と住所を書いたメモを用意していたが、正解だった



宿泊した部屋のベランダからの景色



ナーウィングゲスト ハウス

3/7~3/10の3泊4日
ツインルーム60USドル(日本
円で6,638円)



ヌードルとライス
全体的に甘め

3日目 プノンペン2

03.08 10:00頃



トゥクトゥクで金色の寺院
↓
トンレサップ川にかかる橋を
渡る
↓
トゥクトゥクに乗ったまま船
でメコン川を渡りコーダッチ
島へ
↓
シルクを作っているところを
見学



シルクアイランド



金色の寺院

カンボジアに来て最初に訪れた寺院。装飾がとても細かく煌びやか。壁画や屋根根にはブッダの一生を描いているようだった。



手織り機で複雑な模様も作っていた。写真の機織りしているのは男性。カンボジアの美が編み出される瞬間を間近で見ることができた。また家族で営んでいる所に訪れたので、カンボジア人の生活を垣間見るいい体験だった。

蚕からシルクが出来る細かな過程が見られる。

ほかにプールや動物園のようなものも併設されており、テーマパークのように賑やかな雰囲気。





03.08



一旦ホテルへ

昼とは別のトゥクトゥクで移動



市内で最も古い寺院の一つ。
本堂→

ワットプノン



王宮



ラ・ボルト・ドゥ・カンボジ



冷麺を食べに韓国料理店へ



帰りに独立記念塔を見る



↑カンボジア人の信仰深さを垣間見る。
ワットプノンはこういった参拝者以外にも市民の憩いの場として親しまれているようだった。

石けんや雑貨の売っているお店。日本人の従業員さんがおり、カンボジアに詳しい。



4日目 プノンペン3

03.09 10:00

に昨夜乗せてもらったトゥクトゥクのドライバーと待ち合わせ



KOH PICH

↓
Town hall

↓
チャイナタウン



↓
地元の公園 川を埋め立てて作っている。

建物はカンボジア風

KOH PICHとは地元の遊園地らしい。これはそこで出会った地元の男性3人組と写真撮影したもの



Town hall(city hall)で記念撮影



カンボジアにも中国や韓国が土地を買い街を作っている。

プノンペンの郊外に高層マンションや真新しい中華街が立ち並んでいた。地元のトゥクトゥクドライバーの話によると、中国人がマンションを建ててもカンボジア人にはとても高くて住めないようで、あまり快く思われていないらしい。実際に建設している現場の人はほぼカンボジア人だ。カンボジア経済の一面や事情を目の当たりにした。



ローカル
マーケット
地元の人がよく
行くという
↓
寺院を2件まわる



豚の丸焼き
中国の旧正月でも食べるように
カンボジア人も食べる



学生の姿もちらほら見えた。



食べ物が色鮮やかでとても見応えがあった。



露店に売っている
パイナップルがとても
美味しかった！

チリという辛しょっぱい
塩をつけて食べる



<p>コーダッチ島 ↓ ムスリム ↓ 寺院 ↓ ご飯 ↓</p>	<p>インフォメーションセンター ↓ ナイトマーケット ↓ プノンペンタワー ↓ KOH PICH (遊園地) や プノンペンの夜をドライブ</p>
--	--



コーダッチ島からトレン
サップ川を挟んだプノン
ペンを見る。



店内の様子
パンやケーキなどがショーケース
に入ってる



牛肉はパイナップルと炒めて
あり甘い味付け。鶏肉はレモ
ングラスと唐辛子で味付けさ
れていて口当たり爽やかだが
とてもからかった。どちらが
ライス付で3.5ドル



いろはすに似た飲料水がでてきた。
そのまま読むとダサニ。
他にもファンタやレッドブルなど日本
でも見慣れた飲料メーカーをみかけた
が、クメール文字のパッケージはデザ
インのようでおしゃれにみえた。



5日目 プノンペン4→シェムリアップ

03.10 12:00

インフォメーションセンター
でお勧めされたマリスという
レストランに行く

↓
昨日行ったローカルマーケッ
トでインタビュー

↓
カンダル

↓
郵便局

↓
ヌードルの店で夕飯

↓
ナイトマーケット

↓
ココナッツジュースで一息

↓
夜行バスに乗ってシェムリ
アップへ

ローカルな場所
を知りたかった
ので「あなたの
好きなお店や場
所はどこです
か？」等を聞いて
まわる。

インタビューした中、英語
が通じないにも関わらず、
お話を聞いてくれたり、情
報収集してくれたり、カン
ボジアの人柄の良さを垣間
見た。



カンボジアならではの
食事の堪能！



6日目 03.11 シェムリアップ

早朝、露店で朝ご飯



戦争博物館



キーリング
フィールド



寺院



トンレサップ湖でサンセット
を見る



アプサラダンスを見ながら夕
食（バイキング形式）



デザートにアイスロールを食
べる



ナイトマーケットでお買い物



アイスロール



英語が話せないと断られたので、詳しくは聞けなかったが、ライスとヌードルが選べるスープ。肉は豚・牛・鳥から選べる。人参や大きめの大根・菜っ葉ものが入っていてほのかに甘い。茶色のキューブ型のはわからなかったがとても柔らかく、たぶん肉の加工した何かだと思う。臭みはなく、早朝にやさしい味だった。個人的にカンボジアで食べたご飯で一番心にしみたご飯だった。

メニューとトッピングの種類が豊富！
しかもトッピングは無料





7日目 シェムリアップ2

03.12 早朝

サンライズ アンコール
ワットを見に行く



↓
アンコール遺跡



アンコールワット散策後の
露店ご飯
奥は鶏肉とバゲット
手前はシーフードヌードル
(スープなしなので焼き
そばのようだった)

ココナッツ
シェイク
日中は気温が
30℃を上回
るので水分補
給が大事だ。
この日は遺跡
を歩き回った
うえ非常に暑
かったので



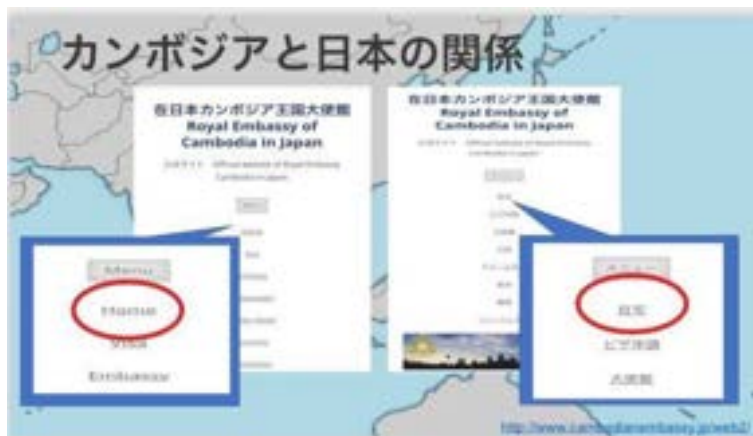
冷たいもの
ばかり食べ
ていた。



カンボジアの隠れた魅力 発掘調査の旅

私たちははじめに、日本から10万円以内の範囲内でほかの参加者と被らない国を探した。その結果、カンボジアという国が候補に挙がった。この国を調べていくと、近年経済が急激に発展(2017年の実質GDPの成長率は7%、過去10年の平均成長率は7%超え)していることや2016年に日本とカンボジアの首都との間で初めての直行便ができていたことが分かった(成田-プノンペン間 全日空)。さらに日本の政府は地雷撤去や遺跡の修復などの分野で多大な協力をしていて、カンボジアにとって最大の開発援助国となっている。このようにカンボジアのことを調べていくうちに、日本とカンボジアの間には大きなつながりがあり、これからさらに結びつきが増えていくと考えられるにもかかわらず、私たち日本の若者がカンボジアという国をよく知らないということに気づかされた。周りの友人に向けたアンケート調査では、ほぼ全員がカンボジアに対して「暑い」「貧しい」「地雷が残っている」というイメージを抱いていると回答した。また世界遺産に登録されているアンコールワットの印象だけが強いということも分かった。このことから私たちがカンボジアの情報に触れる機会はとても少なく、関心を持ちづらいということを表していると考えた。

そこで札幌駅の大型書店に向かいカンボジアに関する本を探したが、手に取りやすい旅行ガイドブックでさえ「カンボジア」という国を扱っているものは見つからなかった。あるのはアンコールワット特集のものばかりでベトナムやタイなどのほかの国とひとまとめにされていた。また、カンボジア大使館のホームページを見てみると、一部しか日本語に訳されていない上に誤った翻訳も見つかった。そこで私たちは日本のこれからを担う私たち世代がもっとカンボジアに興味を持てるように情報発信をしたいと考えた。アンコールワット遺跡群があるシェムリアップは世界中から観光客が訪れていて有名だったので、カンボジアの魅力発掘の主な目的地は首都のプノンペンとした。あまり知られていない魅力を発見するために、ガイドブックやネットに載っているところにそのまま行くのではなく、現地の人にインタビューしながら観光することを目標にした。さらに私たち世代に情報が届きやすいように発信の主な手段を SNS として、Twitter と Instagram のアカウントを作った。特に近年、観光の重要な要素となりつつある「写真映え」や「おいしいもの」も探してプノンペンの観光地としての魅力もアピールしたいと考えた。





1日目 3月6日

16:00 キャセイパシフィック航空で新千歳空港出発

20:55 香港国際空港到着



ブノンペンまでは香港の LCC キャセイパシフィック航空を利用し、空港泊をした。乗り換えの案内は日本語の表記がなく英語と中国語のみだったが漢字なので予測しやすく、案内係の人も英語が通じるので、彼らに尋ねたりしながら無事に乗り換えができた。飲み水やインターネット、充電スポット、休憩所などが用意されていて、夜中でも人が多く想像していたよりも気楽に空港泊ができた。

2日目 3月7日

09:05 香港出発

10:45 ブノンペン到着

空港からタクシーでゲストハウスに向かった。空港から10kmほどの“Nawin Guesthouse”に3泊した。道路を挟んで正面に国立博物館があり、リバーサイドや王宮にも徒歩で行けるほどの近さだった。4階のバルコニーのあるツインルームに大人二人三泊で¥6638だった(一人一泊あたり\$10)。朝食、無料

Wi-Fi、部屋にバスルームもついてた。欧米をはじめとした多国籍の観光客が利用していて、少し朝寝坊をすると朝食がバナナしか残っていなかった日もあったが、とても居心地がよかった。

お昼過ぎに徒歩で30分ほどかけてセントラルマーケットに行った。



食料品をはじめ、衣料品、アクセサリが売られていてとてもにぎわっていた。地元の人が商品を買っているのには驚いたが、彼らが食べているものを観察するのも楽しかった。その後セントラルマーケットから徒歩5分ほどのローカル向けのショッピングモール・Sorya Shopping Center で昼食を食べ、街を徒歩で散策しながらリバーサイドのアイス屋さん・Blue Pumpkin で「インスタ映え」するアイスクリームを食べた。



Instagram では、少し大変だったが日本語だけではなく英語でも説明やタグをつけるようにした。日本人だけでなく海外の旅行に興味がある人からも「いいね！」がきて旅行者同士の情報交換にもつながった。その後、ゲストハウスの向かいにある国立博物館前の公園を散策し、絹織物産業の様子や伝統音楽などを見学した。この日は初日で元気があったこと、自分たちの足で散策したかったため、街中のいたるところにいて「Hello!Tuk-Tuk??」と声をかけてくるトゥクトゥクドライバーたちにことごとく



Liked by icecream_inspector, yashiki_ and 21 others

siu_cambodia ちゃんと「インスタ映え」も探してますよ〜！
トンレサップ川沿いにあるアイス屋さん。二階のソファ席で食べることができます。ココナッツフレーバーは日本ではなかなか食べられないのでオススメです🌴🌴おしゃれ！！👉 2.9\$

Blue Pumpkin Cambodia
Ice cream shop along Tonle Sap River.You can eat at the sofa seat on the second floor.A unique tropical

「No thank you!」と断った。大きい道路以外では交通信号機がほとんどない上にバイクが多くて最初は怖かったが、常に歩行者が優先であり不思議と車やバイク同士の事故も見かけないので1日目で慣れた。

3日目 3月8日

朝、王宮に向けて歩いていたらあるトゥクトゥクドライバーに声をかけられシティツアーの勧誘をされたので、ガイドブックに載っていないようなあまり知られていないところに行きたいと伝えた。レゲエを大音量で流しながら連れて行ってくれたのがトンレサップ川とメコン川を渡ったさきにある Koh Dach 島だった。別名「シルクアイランド」として有名で現地の人々がシルク製品を織っているところや村の様子を見ることができた。行ってから気づいたが、シルクアイランドは「地球の歩き方」に掲載されている。



その後 Wat Phnom と王宮に行った。王宮は観光客だけでなく現地の家族連れが多くみられた。



出口付近で楽器演奏があつたがよく見ると電話しながら演奏していて面白かった。

王宮には膝や肩が出るような露出の多い服装では入れないことになっている。入り口に英語でも表記された大きな看板があり、ガイドブックやインターネットにも注意事項として記載されているが、ハーフパンツやタンクトップでくる観光客を多く見かけた。その場合、入り口にて\$30ほどで服の上から巻くタイプのズボンを購入することになる。「ちょっとくらいいいじゃないか。入れてくれ」「わかったよ。払うよ」というような欧米人の会話を耳にしたが、単にお金がかかるから気を付け



るのではなく、訪れる行先での文化や宗教の背景を事前に最低限調べて敬意をもって観光すべきだと思った。お寺の内部は写真撮影が禁止と分かりやすくイラスト付きで注意書きがあっても警備員の目を盗んで「自撮り」する観光客がいたのは悲しかった。`観光の情報を発信する際、「美しいもの・珍しいものを見ること」や「おいしいものを食べること」はわかりやすく伝えることが可能だし、情報もたくさんある。しかし自分の国にはないその国独自史・文化を学ぶこと」に関して

は興味がない人もいるのが現実だと思う。

この日はとても暑かったので冷たい麺が食べたかった。ゲストハウスのフロントやお土産屋さんの店員に聞いて冷麺レストランがあると聞いたので向かってみることにした。平壤冷麺という北朝鮮経営のお店だった。ネットで調べたところ日本人に対しては態度が悪いというレビューもあったが、そんなことはなかったというレビューもあったので実際に行ってみた。最初に「国籍はどこですか？」と聞かれ日本人だと答えたら私たちのテーブルにあったお茶のピッチャーをほかのテーブルに持っていかれ、料理も40分待った。私たちより後に隣のテーブルに来た中国人客のほうで料理が来るのが早かったり、会計の時にもあきらかに失礼な態度をとられた。とても広いレストランだったがカンボジア人は一人もおらず、予約の中国人団体客が大半を占めていたので中国人や韓国人観光客をターゲットにしているということはよくわかったが、あからさまな国籍差別を初めて体験して驚いた。カンボジア料理は熱いものが多いので、日本人でも気軽に楽しめる冷たい麺料理のお店があったらいいなと思った。このレストランの往復で利用したトゥクトゥクのドライバーが帰り道にライトアップされた Independence Monument をわざわざ通ってくれたのが分かったので仲良くなり、この後 2 日間お世話になることになった。朝の反省を生かしてガイドブックを見せながら「この本に載っていないようなところに行きたい」と伝えたら、「ネットで探してみるし、明日はもっと英語が話せる友人にも合わせるよ。」と約束してくれた。

4日目 3月9日

10:00に前日のドライバー Veasna と約束をして英語が上手なカンボジア人に私たちの目的を伝えた。

そして連れて行ってくれたのがメコン川とトンレサップ川が合流する地点にある離島のローカル向けの遊園地だった。まだ営業していなかったがカンボジアにこんなところがあると思っていなかったのが驚きだった。二つの川の色が全然違うのも面白かった。さらに Town Hall、チャイナタウン、ローカルのデートスポットになっている公園にも連れて行ってくれた。中国や韓国の企業が高層ビルをたくさん建設して



働いているのはカンボジア人たちだったが、「中国や韓国のマンションは建てても値段が高すぎてカンボジア国民は住めないから、中国や韓国に対する印象は悪い」と Veasna が教えてくれた。お昼ごろに向かったローカルマーケットでは



カンボジア人たちが実際に食べているものや生活用品などが売られていてとてもエネルギーに満ちていた。トゥクトゥクで横を通るとたくさんのカンボジア人たちと目が合い、そして必ず微笑んでくれた。親日国であることももちろん実感したが、それよりもカンボジアの人々がコミュニケーションにおいて

「目を見ること」を大事にしているのだろうなと感じた。

この後いくつかのお寺を見て回って子供と仲良くなり、トンレサップ川の反対側の岸からのプノンペンの眺めも見せてもらった。Veasna はカンボジア流のパイナップルの食べ方を教えてくれた。果物屋台では頼めば辛くてしょっぱい「チリ」をもらえる。カンボジア人たちはこれで暑さに打ち勝つらしい。



一度ゲストハウスに戻って近辺を散策していると主にせつけんを扱ったお土産屋さんで働いている日本人女性に出会った。

どうしてカンボジアに移住しようと思ったのか尋ねると、「あったかいところに行きたくて、10年前は就労ビザがとりやすかったからカンボジアに決めた。」と教えてくれた。調べてみると2017年9月には6か月と1年の就労ビザを取得するには労働許可証カードの提出が義務付けられるなどだんだんと規制が厳しくなっているようだ。彼女には他にもカンボジアでの食事やお気に入りの場所などもインタビューした。この国で働いている日本人に会えるとは思っていなかったので、いい出会いだったと思う。

プノンペンには野良猫が多くとても人懐っこいので猫好きの人にはぜひ町中にあるお寺に行ってみることをお勧めしたい。夕方にはトンレサップ川沿いにあるプノンペン観光インフォメーションセンターにいき「あまり観光客に知られていない、おすすめの場所はありますか？」とインタビューしたが、担当の方が先月プノンペンに配属になったばかりで有名なところ以外はまだまだよく現地のことを知らないとのことだったので、代わりに彼のお気に入りのカンボジア料理レストランを教えてもらった。



その後ナイトマーケットに行ってお土産や服を買った。まとめ買いをするとおまけをしてくれる。どこも同じようなものを売っているが、柄やサイズ、生地が微妙に違い提示される値段もお店によって全然違うので、よく見て回ってから買うのがコツである。その後せっけん屋さんの日本人お姉さんおすすめのプノンペンタワーに向かった。日本では絶対に体験できないフェンスの心もとのなさと360度の夜景を見ることができた。カンボジアでこんなきれいな夜景を見られるなんて知らなかったのでぜひたくさんの人に知ってもらいたい。



そして帰り道、朝営業していなかった遊園地をもう一度通ってくれた。難しい要求を一生懸命理解しようとしてくれた上



にホスピタリティあふれる案内をしてくれた Veasna には本当に感謝している。



5日目 3月10日

4日目の観光案内所で教えてもらったカンボジア伝統料理の Mallis レストランに行った。入ってみると予想外に高級レストランだったので学生にはおすすめできないが料理はとてもおいしかった。残りの時間



を使ってローカルマーケットで現地の人々に人に知られていないけどおすすめしたい場所を聞いて回った。しかし英語が通じる人が少なく私たちの目的を正確に伝えることはできなかった。観光地を離れると文字を読める人や英語がわかる人がとても少なくなることを実感した。

We came from Japan
to discover new wonderful parts
of Cambodia.
We want to tell the good points
of Cambodia to Japan!

Thour
Sangthay
+ Samith
by hour
Sarith



それでも一生懸命話を聞いてくれ、「僕より英語わかる人連れてくるね」

とどんどん人が増えて最終的に20人近くが私たちの話をきいてくれた。

時間が限られていたので、この日に地元の人おすすめの場所に行く

ことはできなかったが、カンボジアの人々の仲の良さやあたたかさを

感じた。「プノンペンのお気に入りの場所」について文字が書ける人

にはノートに書いてもらった。ほかにも好きな食べ物や子育てについて

の話と一緒にした。

また初日から日本製の車がとても多いことが気にな

っていたので、この日のトゥクトゥクの移動時間を使い、二人で選挙

の手元読みの要領で車のメーカーとその数を調べた。TOYOTA が圧

倒的に多く全体の6割を占めた。次にHonda、レクサスが僅差だった。

レクサスを TOYOTA にカウントすると TOYOTA は私たちがこの日目

にした車の7割を超えた。ほかには三菱、マツダ、ニッサン、スズ

キ、イズも見かけた。Veasna によると日本の車は品質が良く世界的

にも有名だが、カンボジアでは特に親日なこともあって日本製の車

が人気だそうだ。実際にカンボジアで見つけた日本以外の国の車メ

ーカは BMW、フォルクスワーゲンなど合わせてわずか1.5パーセン

トだった。一方でバイクはHondaが一番多かった。この日の23:30

プノンペン発の夜行バスでシェムリアップに向かった。6時間ほどで

大人一人たったの\$15だった。席はフラットになるタイプで飲料水も

もらえる。昼間のびんでは軽食や途中休憩もあるようだ。インターネ

ットで予約をしていたので、前日に念のため確認に事務所に向かった

が、とてもフレンドリーかつ親切に当日の集合場所などを教えてくれ

た。着くのが早朝だったので、活動できるまでバスの到着場所で待つ

ことを覚悟していたが、すでにトゥクトゥクが十数台待機していて、シ

ェムリアップについてすぐにホテルに向かうことができた。

左下の写真は最後にリバーサイドを散策していた時に見つけた、排

水施設を整備し雨水を効率的に排水することで川の氾

濫や洪水を防ぐ計画で日本が協力したことを示した記念碑

の写真だ。



6日目 3月11日

シエムリアップで二日間お世話になることになったトウトク
ドライバーおすすめの屋台朝ごはん(豚肉と野菜のスープ麺、
1.5)を食べてから戦争博物館、キリングフィールドを見学しに
行った。ポルポト政権時代の武器やベトナムとの戦争時の地雷
を見ることができた。プノンペンには猫が多かったがシエムリアッ
プは犬が多かった。その後トンレサップ湖のサンセットクルーズ
に向かった。これは観光客がとても多く来ていて日本人観光客
にも結構会った。



湖の上で生活している村や魚を捕りに来ている様子を近くで見ることができた。途中で違う船から乗り
移ってきたフレンドリーなカンボジア人がクメール語の「リーハイ(さようなら)」「スレイスアー プロッスアー
(かわいい)」「プロクタイ(オカマ)」を教えてくれた。



帰り道に私たちの船のエンジンが壊れたのでたくさんのほかの船に追いこされ、ほかの旅行者や現地の人たちと手を振りあえて逆に楽しむことができた。一人\$25と値段は少し高めだがお金に余裕があればぜひ体験してもらいたいほどのきれいな景色と旅行者同士の一期一会のコミュニケーションを楽しめるアトラクションだった。

この後カンボジアの伝統的なアプサラダンスのディナーショーを見に行った。大きなホールにビュッフェがあり、「sushi」や「tempura」も見つけた。クルーズやディナーショーは事前に町の観光案内所でチケットを買っておくと並ばずにスムーズに入ることができるとトゥクトゥクドライバーが教えてくれた。



この後ホテルまで歩き、ナイトマーケットやパブストリートの雰囲気を楽しんだ。プノンペンのナイトマーケットで\$3といわれていたTシャツがシェムリアップのナイトマーケットでは\$8だった。アンコールワット遺跡群のあるシェムリアップのほうが発展しているの、それによる物価の違いに驚いた。またスーパーマーケットのお土産コーナーで\$2の定価がついていたキャンドルが、マーケットでは\$8と言われ、じゃあいいよという「わかった！\$3！いや\$2！」と急に値段が下がるので旅行者の見た目によって最初に提示する値段を変えているのだろうなと感じた。ライブがそこら中で開かれていてかなり夜遅くまでにぎやかだった。ホテルやストリートで日本人と会ったときはTwitterとInstagramのアカウントを宣伝した。



7日目 3月12日

最終日であるこの日は朝からアンコールワットに向かった。朝寝坊したが朝焼けの景色にぎりぎり間に合った。



アンコールワットのおへそ→
朝から観光客がたくさんいて
日本語でのガイドの声も聞こ
えた。アンコール遺跡群の
一つであり「天空の城ラピュタ」
のモデルになったといわれてい



るベン・メリアに行きたかったが片道2時間かかると
いわれたので断念し、雰囲気似ているところがない
かドライバーに尋ねたら「多くの観光客は知らずに通り
すぎるけど森の中に小さくて似ているところがある」と
タ・ネウという遺跡に連れて行ってもらった。



アンコールワットでは現地の人とかかわる機会が
少なく、「有名な観光地」だったのでプノンペンに

4日間滞在した後だからか物足りなく感じた。

観光や世界遺産に興味があつてこの大学に入学したが、1年生で海外旅行、しかもカンボジアに行く機会を手に入れることができるとは全く思っていなかった。行先に決めて詳しく調べはじめの前と後でカンボジアに対するイメージはだいぶ変わったが、実際に来てみると想像していなかったことがいっぱい百聞は一見にしかずとはこのことだなと思った。ここには載せきれない写真や食べ物のこと、買い物のコツ、出会った人々のこと、カンボジアで見つけた日本語シリーズ、日本の若者世代に知ってほしいことはTwitterやInstagramでこれからも発信していく。カンボジアに行くことが決まってから、偏ったイメージや情報で私たちのことを心配していた友人、知り合いの方々もSNSの投稿や写真をみて「私もカンボジアにいきたくなつた!」と言ってくれる人が多数いてこの旅行は成功だったなと感じている。大人数で行くようなすべて設計されていて不自由のないパッケージツアーは今後少なくなっていくと考えているので、初めての海外旅行でガイドブックに頼らない旅行をできたことはとても活かしがいがあると思っている。言葉の壁もあつたが旅行中にドライバーやホテルのスタッフ、お店の店員などとストレスなく意思の疎通がとれて、自分の目的や要望を英語で相手に伝えられた時に味わつたうれしさも、海外旅行の楽しみの一つだと感じた。

観光ビジネス学科17131060 横山 由奈